

高潮頻発 日本も脅威

IPCC予測

1面

気候変動に関する政府間パネル（IPCC）が25日公表した特別報告書は、地球温暖化が高潮被害などを増加させ、日々の暮らしを脅かす恐れを明確にした。地域によっては、100年に1度しか起きないような高潮が、毎年のように起きる恐れがあると指摘。東京、大阪など沿岸に都市が広がる日本もこうした高潮の頻度が上がる可能性がある。

高潮は、低気圧の影響で海面が吸い上げられて潮位が上昇するとともに、沖からの強風で海岸に海水が吹き寄せられて起きる。地球温暖化が進めば強力な台風

が増え、海面水位の上昇と相まって、高潮による浸水被害が起きやすくなる。最近では2018年9月、四国・近畿地方が台風21号に襲われ、強風に伴う高波で関西空港が浸水。旅客ターミナルの一部が停電するなどした。

東京大・大気海洋研究所の阿部彩子教授（気候力学）

は「海面水位はかつてないほどのスピードで上昇する。防潮堤など短期的な対策だけでなく、都市のあり方なども含め長期的な視点で対策を議論すべき時に来ている」と指摘する。今回の報告書をもとに、政府が温暖化対策を加速させることが求められる。

（科学部 前村尚）